

令和6年12月2日
(2024年)

保護者の皆様へ

吹田市立江坂大池小学校
校長 花田 郁子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、2学期はじめに個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページで公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に注力することが、調査本来のねらいであると考えています。

調査結果を踏まえて、対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、児童の学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

各家庭・園におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

Ⅰ 教科に関する調査の分析

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

(1) <知識・技能> 全国値をやや上回っている

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく書き取る問題や、主語・述語の関係を捉える問題の正答率は、全国値を上回っている。ただし、無回答率は全国値並であり、低いとはいえない。
- ・相手に、より正確に内容を伝えるための工夫（言葉の順序に気を付けたり、短い文で伝えたりする。）に気付く問題の正答率は、全国値をやや下回っている。

(2) <思考力・判断力・表現力等> 全国値をやや上回っている

A 話すこと・聞くこと 全国値をやや下回っている

- ・他校の児童とのオンライン交流の場を設定し、聞き手の興味関心を考慮しながら、資料を活用して自分の考えを表現する問題の正答率は、全国値をやや下回っている。

B 書くこと 全国値をやや上回っている

- ・学校の良さを伝える文章を書くにあたり、集めた材料を分類したり、関係づけたりする等、整理して、要点を明確にする問題の正答率は、全国値をやや上回っている。

- ・問題形式として、記述式や短答式の正答率が全国値をやや上回っており、無回答率も低い。

C 読むこと 全国値をやや上回っている

- ・物語文を読んで、心に残ったところやその理由をまとめるにあたり、登場人物の人物像や心情、物語の全体像を捉える問題の正答率は、全国値を上回っている。

《国語科における成果と今後の改善点について》

国語科において、平均正答率は全国値をやや上回っていました。

漢字の書き取り等、基礎基本の内容については、朝のモジュールの時間の取組みや日々の宿題に継続的に取り組んだ成果により、定着しているように思います。

また物語文の読み取りについても、正答率は概ね全国値を上回っていました。読書タイム等の設定により、読み物に親しむ機会を確保できていたことが一因だと考えます。併せて、低学年より、理由を伝える話型を利用して学習する習慣が定着していることから、記述式の問題にも対応できていました。

一方、意見交流の場で、相手と考えを伝え合う問題について課題がありました。

国語科に限らず様々な学習場面で、伝え合う活動の充実をめざして、一人一台端末を積極的に活用しているところではありますが、さらに意見交流に有効なアプリの活用を推進し、子供たちの対話的な深い学びにつなげていきます。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

A 数と計算 全国値をやや下回っている

- ・問題場面（2人の折り紙の枚数の比較）の数量を正確に捉え、その数量関係を立式する問題の正答率は、全国値をやや下回っている。
- ・計算が成り立つ性質を活用し、より簡単な計算方法で答えに導く問題の正答率は、全国値をやや上回っているが、小数の割り算等、基礎的な計算力には若干課題がみられる。

B 図形 全国値をやや下回っている

- ・方眼紙を活用し、辺の長さや角度に気を付けて、直方体の見取り図を書く問題の正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・円柱の展開図を考察し、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について見取る問題の正答率は、全国値を下回っている。

C 変化と関係 全国値をやや下回っている

- ・速さと距離を基にして、時間を答える問題の正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・等しい距離を歩いたが、かかった時間が違う2人の速さについて、どちらが速いか判断し、その理由を言葉や式で表す問題の正答率は、全国値をやや下回っている。

D データの活用 全国値をやや下回っている

- ・折れ線グラフから必要な情報を読み取り、読み取った内容を言葉で表現する問題の正答率は、全国値を下回っている。
- ・桜の開花予想日を、複数の情報から必要な数値を読み取り、関連付けて求める問題の正答率は、全国値を下回っている。

《算数科における成果と今後の改善点について》

算数科においては、全ての領域で正答率が全国値をやや下回る結果でした。

生活における様々な場面や事象を、数学に置き換えて思考したり表現したりすることに課題が見られました。ブロック、数直線、線分図等の思考ツールを、学年に応じて系統的に指導し、子供たちが情報を整理したり、筋道立てて思考したり、表現する活動を継続的に行う必要性があると考えます。

また、長い問題文を粘り強く、深く読み込むことにも課題が見られました。本校では、昨年度より「主体的に粘り強く算数の問題に向き合う子の育成」を研修テーマとして取り組んでいます。引続き、粘り強く、問題と正対し、最後まであきらめないで考え抜く力を育成していきたいと思えます。

小数の計算など、一部の領域では基礎基本の内容にも課題が見られました。学年の実態に応じて、分割授業や習熟度授業を行い、一人一人にきめ細かな指導が行き届くように努めます。

2 児童質問紙(生活習慣、学習等に関する調査)の傾向

【教科・学習について】

- ・学習するにあたり、タブレットを活用することで、「自分の考えを分かりやすく伝えることができる」、「画像や音声を活用することで理解が深まる」、「楽しみながら取り組むことができる」、「友達と協力したり、共有したりしやすくなる」はいずれも肯定的回答が概ね 80%である。子供たちの学習活動にタブレットが確実に位置づいてきていると考える。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答が約60%、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、30分以上が約70%だった。いずれも全国値を下回っている。家庭・園と連携し、宿題等を活用しながら自主学習を促し、学習習慣の確立に努める必要がある。

【基本的な生活習慣等について】

- ・「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では、肯定的回答が概ね90%となっており、安定した学校生活につながっているといえる。
- ・「1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」では、2時間以上が約35%で、全国値と同等ではある。しかし、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、約束したことを守っていますか」では、否定的回答が12%で、全国値を上回っており、改善する必要がある。

【規範意識・自己有用感等について】

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、肯定的回答が92%、「友達関係に満足していますか」では、肯定的回答が85%であった。引き続き、学校生活における様々な取組みをとおして、より良い集団生活や子供たち同士の信頼関係の構築に努めていく。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では肯定的回答が81%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では肯定的回答が65%であり、全国値を下回っている。コロナの影響で取組みが困難であった地域の中での活動や、地域の方との交流等は、今後積極的に実施し、社会の形成者としての意識を育てていく。

3 最後に

学力調査の正答率と、質問用紙(生活習慣が学習等に関する意識調査)の回答をクロス集計した結果が公表されています。

◇月曜日から金曜日まで1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、スマホを使ったゲームすべてを含む)をしますか。

4時間以上と回答した児童	国語の平均正答率57.6	算数の平均正答率52.1
1~2時間と回答した児童	国語の平均正答率71.0	算数の平均正答率67.4
全くしないと回答した児童	国語の平均正答率76.8	算数の平均正答率74.0

◇自分にはいいところがある。

当てはまると回答した児童 国語の平均正答率70.5 算数の平均正答率66.8

当てはまらないと回答した児童 国語の平均正答率62.5 算数の平均正答率57.6

この結果からも、学力テストの結果は、生活習慣や、学習や生活に対する意識と無関係ではないことがわかります。

上記のクロス集計の結果は全国値によるものですが、本校で1日に4時間以上ゲームをすると回答している児童は、全国平均を上回っています。また、自分にいいところがあるに当てはまらないと回答している児童は全国値を大幅に上回っています。

改めて、全国学力・学習状況調査の結果から、子どもたちの生活の状況や学習や生活に対する意識をしっかりと捉え、学校・園・各家庭において子どもたちが学びに向かう環境を整えていくことが必要だと思います。

今後の取り組みに、ご理解ご協力をお願いいたします。